

令和2年度生涯学習部研修会報告(東濃地域)

日時: 令和2年10月18日(日) 時間: 10:00~13:00

形式: WEB研修会(ZOOMを使用)

テーマ: 脳卒中片麻痺患者の歩行能力向上に必要な知識と実践

講師: 中谷 知生先生(宝塚リハビリテーション病院リハビリテーション研究開発部門長)

講師: 浅井 智也先生(多治見市民病院 総合リハビリテーション課)

参加人数: 27名(スタッフ含む)

【当日の様子】

本日のセミナーの目的

脳卒中片麻痺患者さんの歩行能力を
最大限引き上げるために必要な考え方を
持って帰っていただきたい

アウトライン

- 10時00分~ ①本講習会の目的 (15分)
- 10時15分~ ②脳卒中片麻痺者の歩行再建の理論 (60分)
-10分休憩-
- 11時25分~ ③脳卒中片麻痺者の歩行再建の実践 (30分)
- 11時55分~ ④症例紹介 (45分)
- 12時40分~ ⑤質疑応答 (20分)

当初は対面での実技を含めた講習会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により、完全オンラインでの研修会となりました。今回は「脳卒中片麻痺患者の歩行能力向上に必要な知識と実践」というテーマで、著書も多く執筆されてみえる宝塚リハビリテーション病院の中谷知生先生をお招きしてご講演頂きました。

脳卒中片麻痺者の歩行再建の理論について、豊富な知見を基に要点を絞って分かりやすくご説明頂き、多くの症例動画を通じてその実践例についてもご提示頂きました。2足歩行について人間とチンパンジーの歩行様式が違うことや歩行トレーニングのゴールについてなど先生が度々強調しておっしゃっていたのは、歩行再建に必要な考え方は共通理解として持ち帰って頂きたいが、実践方法については各施設や個人で考えて頂きたいとのことでした。その方法の選択肢として、今回は長下肢装具や各種歩行補助具の使用例をご提示頂きました。また、動作分析機器などの評価ツールを積極的に使用することは、介入の妥当性を検証することが可能になるとともに、介助技術を可視化することが可能となり、臨床判断の明確化につながることを学ぶことができました。

講演後は受講者から質問を多く頂き、アンケートの結果は満足度が高く、非常に充実した研修会になったと考えます。最後に、貴重な時間を割いてご講演頂きました中谷先生をはじめ、賛助会員の皆様、本研修会に携わっていただいた生涯学習部スタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。

生涯学習部 小久保 晃